

回覧

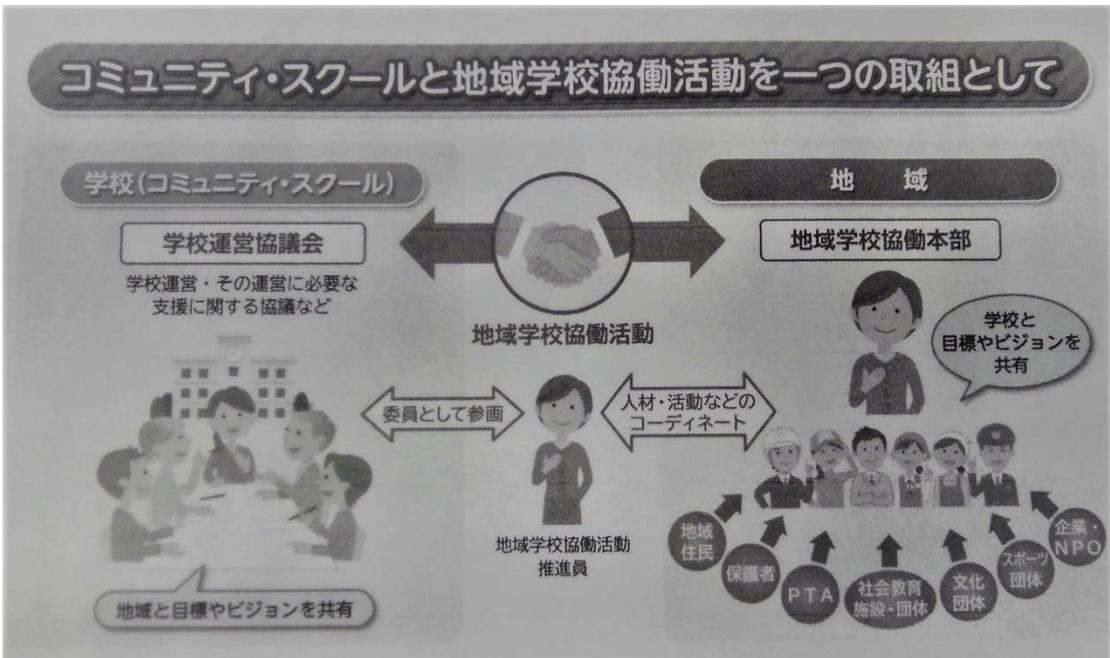
地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「地域学校協働本部」浮上

再生協の事業継承で町から提案

再生協議会の後継として「一色小(学校)を核とした地域づくり」を目指す組織案が浮上してきた。具体的には、一色小コミュニティスクール(CS)を支援し、連携して活動する地域学校協働本部



(仮称)を設け、その中に協議会が蓄積してきた事業活動を取り込むもの。協議会ではこの町提案をベースに意見調整をはかり、2月中に方向付けしたい考えだ。

地域学校協働本部は文部科学省が推進しているコミュニティスクール

CSと地域学校協働本部のイメージ図(文科省)

ルの強化策。自治会

など域内団体からなる新組織を設け、「地域とともにある学校」を目指すCSと連携して学校づくり、地域づくりを一体的に進める施策。二宮町は、CSが先行してスタートした一色小 (以下裏面へ)

友情の山、稀少樹木を追加

友情の山部会(岡村昭寿部会長)は、一色小・友情の山で追加的な植樹を行う。このほど補植する場所と樹種を決める調査を行った。PTAなどが計画している桜の補植と歩調を合わせ、3月中に終わらせる。

友情の山はヤマユリや山野草の自生種が豊かに残ることで知られ、地域住民が学校、子ども達と協力して保護・管理している。ただ、枯れたり、折れた樹木も目立ち、ユリや山野草の生育に影響しない範囲での植樹が必要になっている。

事前調査では数名の部会員が山全体を見て回り、樹種は稀少性の高いこの地区の固有種を中心に選ぶことにした。現在のところ、クロモジ、モクレイ、マユミなど子供たちにとってもなじみの薄い樹木が候補にあがっている。



学区にこの施策を導入することで、CS活動と地域づくりをともに前進させる契機になると見ている。

平成28年発足の再生協議会は、現在の友情の山部会、こうりゅう塾、やまゆり合唱団など当初から一色小を拠点の一つとし、「学校を拠点にした活動、交流の活発化」を志向してきた。また一色小CSも学校運営協議会を中心に、町内では最も活発に動いているものの、地域のバックアップにはまだ課題を残している。

ただ、この地域学校協働本部案は現在、対象にする事業活動の範囲、構成団体、運営体制や運営上の財政基盤など肝心の部分はまだ明確になっていない。これらについてどこまで詰めることができるかが、地域内でのコンセンサス形成の鍵になると思われる。

「お試し移住」の追加実施、見送り

空き家対策部会(廣上正市部会長)は、検討していた「湘南にのみや・お試し移住」の追加実施を見送ることにした。昨秋初めて実施したお試し移住には町外25家族の応募があり、12月にかけて計4回、11家族を二宮町に招いている。ただ、応募にもかかわらず、“落選”した家族が10組以上出たことから、今年1月にも追加実施する可能性を探っていた。ここに来てコロナ対応の緊急事態宣言が出るなど、具体化には無理があると判断した。

「お試し移住」まとめ(参加者アンケート)

空き家対策部会は昨年11-12月に実施した「湘南にのみや・お試し移住」への参加者の概要と、体験家族のアンケートをまとめた。ほとんどがこの事業を前向きに受け止め、「二拠点居住」を含めた移住を決めるうえでの手掛かりが得られたとしている。要点を紹介する。

1 応募25家族の状況

- (1)地域別 東京16組(うち23区11組)、神奈川県4組、埼玉県3組、千葉県2組
- (2)応募理由(複数回答)「西湘周辺で探している」13組、「仕事がテレワーク」13組、「子供の教育環境」9組、「自然・アウトドアが好き」7組、「知り合いの紹介」3組など。

2 実施後のアンケート結果から(回答は10組)

(1)この企画をどこで知ったか(複数回答あり)

太平洋不動産のHP4、「知人の紹介」4、「スマホのニュース速報」1、「知人から応募サイトを教えてもらった」1、「Twitterで神奈川の移住サイトを検索して」1、「Googleニュースサイト」1など

(2)参加して良かった点

・ネットの情報ではわからない住民、町の雰囲気、密度感、小山あり海ありの自然環境の豊かさを実感できたこと。町のお店の人たち、オリーブ栽培者、先輩移住者など町民の暮らし方に直に触れたこと。

・宿泊してみて地元のスーパーの相場感、新鮮でお手頃な値段の魚屋の存在など、実際に生活する上でのシミュレーションになった。

(3)改善してほしい点(抜粋) 宿泊施設についての情報が不足、ガイダンス・町内案内の拡充、戸建て物件案内を増やす、先行移住者との交流など。

(4)期間中に訪れた場所 略

(5)プログラム参加後、移住に対する気持ちは?

参加の全11組が「移住への気持ちが高まった」と回答(1組は「移住を決定」と記入)

